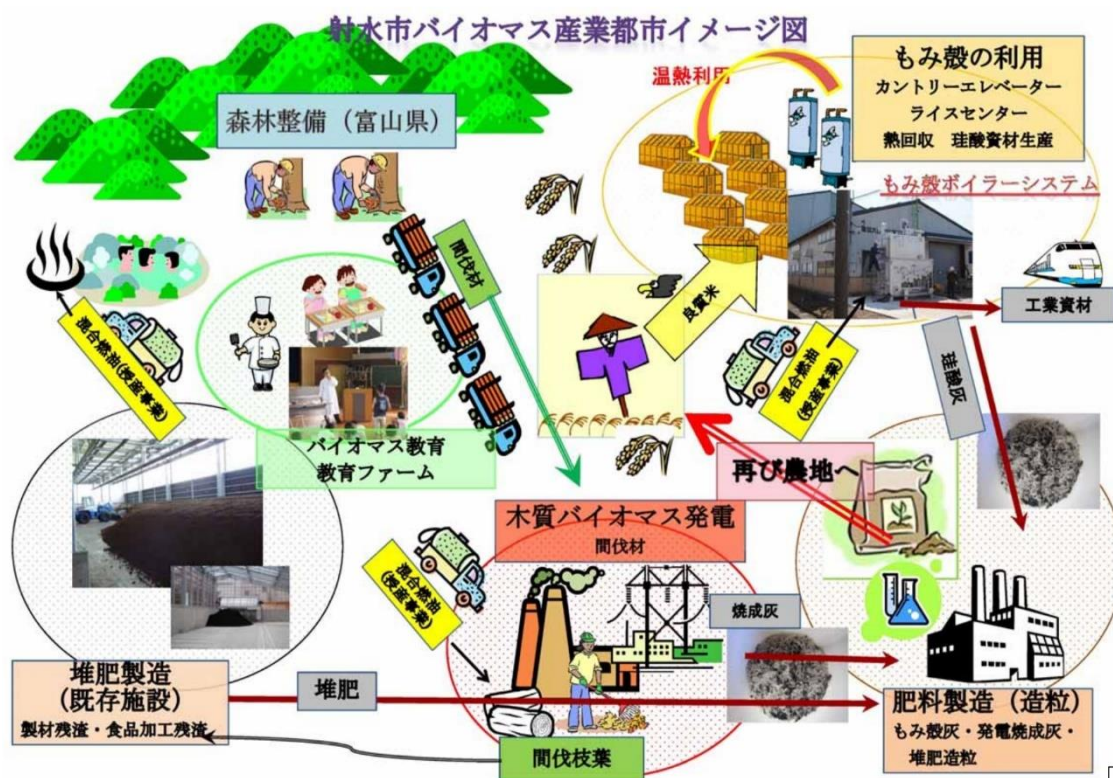


富山県射水市

住所	〒939-0294 富山県射水市新開発410
町長	夏野 元志
HP	https://www.city.imizu.toyama.jp/
バイオマス産業都市選定年度	2014年度
バイオマス産業都市構想	https://www.maff.go.jp/j/shokusan/biomass/b_sangyo_toshi/attach/pdf/26bosyu-4.pdf
担当部署	産業経済部 農林水産課
連絡先 TEL	0766-51-6677
連絡先 FAX	0766-51-6692
連絡先 E-mail	nourinsui@city.imizu.lg.jp



事業化プロジェクトの概要

名称	1.廃食用油活用推進	
実施主体	社会福祉法人 いみず苑	
使用する技術	BDF製造	
実施体制	プラントメーカー	株式会社 エイコー
概要 (計画)	バイオマス原料	廃食用油
	原料処理量(ℓ/年)	15,000
	混合燃料(ℓ/年)	50,000



混合燃料製造装置（全景）



混合燃料を配達する光景

名称	2.木質バイオマス活用			
実施主体	北陸ポートサービス(株)			
使用する技術	堆肥製造			
実施体制	プラントメーカー	日環エンジニアリング株式会社		
概要 (計画)	バイオマス原料	樹皮	剪定枝、刈草	その他
	原料処理量(t/年)	2,000	3,000	550
	堆肥化製造量(t/年)	4,300		

名称	3.もみ殻の有効利用			
実施主体	いみず野農業協同組合			
使用する技術	熱利用（もみ殻燃焼）			
実施体制	プラントメーカー	北陸テクノ株式会社 ヤンマーグリーンシステム株式会社 東海物産株式会社		
	設計・施工業者	全農富山県本部		
概要 (計画)	バイオマス原料	もみ殻		
	原料処理量(t/年)	321		
	原料投入量(t/年)	321		
	熱量(kcal/年)	316,777,500		
	FITの適用	<input type="checkbox"/> FIT適用 <input checked="" type="checkbox"/> FIT対象外		
	副産物生産量(t/年)	もみ殻灰・64		



施設全景



もみ殻原料タンク



もみ殻搬送装置



ボイラー（熱交換機）



もみ殻灰置き場（ストックヤード）



熱供給施設（温水ボイラー）



熱供給施設（貯湯槽）



もみ殻灰（ハイカラさん）散布 1



もみ殻灰（ハイカラさん）散布 2

名称	04 木質バイオマス発電		
実施主体	グリーンエネルギー北陸株式会社		
使用する技術	木質バイオマス発電		
概要 (計画)	バイオマス原料	未利用木材	PKS (ヤシ殻)
	原料処理量(t/年)	50,000	13,500
	発電の場合は発電量 (MWh/年)	46,400	
	FITの適用	<input checked="" type="checkbox"/> FIT適用	<input type="checkbox"/> FIT対象外

事業化プロジェクト	進捗状況
1.廃食用油活用推進	令和2年度混濁油として42,100リットルを納品
3.もみ殻の有効利用	<ul style="list-style-type: none"> もみ殻を燃焼させる際に発生する排熱を温水に変換し、イチゴ栽培における冬季間のハウス暖房に利用している。 もみ殻を燃やした後に出てくるもみ殻灰をケイ酸肥料として販売できるよう、各種データを揃えるため実証試験・分析鑑定等を継続的に実施している

イニシャルコスト(千円)

事業化プロジェクト名	3.もみ殻の有効利用
建設費・設備費等	190,060

事業の経営状況

事業化プロジェクト	計画との進捗比較※
1.廃食用油活用推進	A 計画以上に進捗している
2.木質バイオマス活用	A 計画以上に進捗している
3.もみ殻の有効利用	C 計画より遅れている
4.木質バイオマス発電	A 計画以上に進捗している

※ A)計画以上に進捗している B)ほぼ計画通り C)計画より遅れている D)進んでいない

成功要因

事業化プロジェクト	成功要因
1.廃食用油活用推進	自治体及び市民の協力

波及効果（雇用増加、CO2削減効果等）

事業化プロジェクト名	成功要因
1.廃食用油活用推進	障害者の工賃向上及び社会参加の促進 低炭素社会の形成及び啓発

停滞要因

事業化プロジェクト	停滞要因
3.もみ殻の有効利用	もみ殻の肥料化について、肥料規格申請に必要な栽培試験の実施が遅れたため商品化に至っていないが、特殊肥料として「ハイカラさん」の販売を行っている

運営上の課題

事業化プロジェクト	運営上の課題
3.もみ殻の有効利用	施設運営に関して、もみ殻燃焼炉の稼働は平日の日中のみのとなっているため、暖気及び冷却にかかる時間ロスがあるため24時間稼働による効率化を検討している。 熱利用に関して、現在は冬期間のみの利用となっているため、夏場でも熱を利用できる事業を模索している。